

日本土壌肥料学会主催シンポジウム

「原発事故から10年－これまで・今・これからの農業現場を考える」

「日本土壌肥料学会からの挨拶」
「はじめは地震と共に：成果を繋ぐ研究の進展」
「農地土壌の放射性物質濃度分布図の作成について」
「除染後農地の問題点と農業復興に向けた取り組み」
「動きにくいセシウムの3つのかたち」
「作物を放射能汚染から守る黄砂の力」
「カリウム肥料を撒くことの効果－水稻－」
「ダイズの放射性セシウム濃度が高い理由」
「水稻におけるセシウムの吸収と体内での動き」
「これから歩む道」
「総合討論」
「閉会の言葉」

波多野隆介（北海道大学・日本土壌肥料学会前会長）
塚田祥文（福島大学）
前島勇治・高田裕介・神山和則（農研機構）
齋藤 隆（福島県農業総合センター）
山口紀子（農研機構）
中尾 淳（京都府立大学）
藤村恵人（農研機構）
二瓶直登（福島大学）
古川 純（筑波大学）
信濃卓郎（北海道大学）
信濃卓郎・中尾 淳
妹尾啓史（東京大学・日本土壌肥料学会会長）



開催場所：パルセいいざか（福島県福島市飯坂町字筑前27-1、<https://paruse.fckk.jp>）

最寄駅：JR福島駅発－福島交通飯坂線（約21分） 飯坂温泉駅 徒歩8分

日時：2021年11月5日（金）10:20－16:30（無料）

定員：500名

詳細・講演要旨:日本土壌肥料学会HP（<http://jssspn.jp>）

参加申し込み:<https://forms.gle/XXHvmB9AWfAc5STR6>

申し込み後に講演要旨ダウンロードのためのパスワードをお知らせいたします。

Youtube ライブ配信も行います。
要登録



事前予約制ですので、11月2日まで上記URLよりお申し込みください。なお、締め切り後の問い合わせはshinano@chem.agr.hokudai.ac.jpまでお願いします。

* 新型コロナウイルスの状況によっては開催方法の変更の可能性あり

主催（一社）日本土壌肥料学会、日本学術会議土壌科学分科会
後援：福島県、福島大学、農研機構